

C—10 岡山県における財の流通と家計について

岡山大 深田 貞子

1. 家計において労働 Energy を生産するに当たっては生産労働の生産する諸物資と Services の供給をまたなければならぬ。この生活消費 Energy に転化される諸物資と Services が購入という段階を経てなされるのは重要なことで、家計構造はこれらの財の動きに関係があると見られる。そこで諸物資の県内外における流

通状態を知ろうとするものである。

2. 県民所得，消費水準については県民所得推計資料により，また財の動きについては鉄道，陸上，海上輸送の発注資料によって分析を試みた。

3. わが国の経済成長の急速な発展においてみられる如く，岡山県においても複雑な構造的変化がみられ，第1次産業が縮小し，第2次産業が伸びており，県民所得でも第2次産業の占める割合が大きくなってきている。このような経済構造の中で，生活消費に使われる財は各府県の産物であり，それは必ず県外県内に発注の動きとなって現われ，鉱産品，農産品，畜産品，化学工業品，繊維工業品，雑工業品は全体的に流出量が流入量を上回っているが，水産品，林産品，食料工業品などは流入量の方が多い傾向にある。財の種類，生産規模，経済地域などの関係からその流通範囲は制約されるが，府県別の経済力の Share の変化によって流通部門のあり方も影響をうけ，県民生活の高度化につれて，財の流通範囲も拡大されていくものと思われる。